

第4回「霞ヶ浦田村・戸崎・沖宿地区自然再生協議会」

提出資料

- 霞ヶ浦環境科学センター関連湖岸等整備計画検討委員会報告書（概要）
平成12年9月〔茨城県生活環境部霞ヶ浦対策課〕
- 「霞ヶ浦の光をあびて走り抜けるサイクリングロード」（霞ヶ浦自転車道概要）
平成11年度〔茨城県土木部道路建設課〕

○霞ヶ浦環境科学センター関連湖岸等整備計画検討委員会報告書（概要）

当報告書策定の経緯

霞ヶ浦環境科学センターの基本計画を踏まえてセンター周辺の湖岸部分の活用方を検討するため、平成12年5月、当委員会が設置され、2回の検討会の後、同年9月、当委員会より報告書として提出されたものである。

なお、当報告書は、地元要望等を踏まえて反映した構想案であり、策定に当たっては土地利用や関係諸制度等に関する地権者、国、市町村等との調整は行っていない。

委員会の構成

区分	氏名	所属
学識者 (3名)	○前田 修 長谷川 幸介 島谷 幸宏	富士常葉大学教授（植物学） 茨城大学助教授（環境教育） 土木研究所環境部河川環境室長
市民代表 (3名)	堀越 昭 山根 幸美 小松崎 正衛	（社）霞ヶ浦市民協会理事長 NPO 法人アサザ基金理事（土浦市） 霞ヶ浦町まちづくり100人委員会委員長
地域代表 (2名)	城取 誠之助 桜井 謙治	霞ヶ浦漁業協同組合連合会会長 霞ヶ浦町環境審議会委員（水産加工）
行政機関 (4名)	飛田 忠一 石神 進一 倉田 芳夫 田谷 英夫	霞ヶ浦工事事務所所長 土浦市環境保全課長 霞ヶ浦町環境防災課長 霞ヶ浦対策課長

○：委員長

（注）敬称略。所属は当時のもの。

計画の方針

この計画は霞ヶ浦環境科学センター整備計画を踏まえ、センターを中心に、関連する一連の区間について検討を行い、今後の事業推進に資することを目的に実施する。

計画区間は、霞ヶ浦環境センターを中心に土浦浄化センターから川尻川河口付近までの約7キロメートル。

基本理念

本計画は、計画地周辺の現況特性及び課題を踏まえ、霞ヶ浦環境科学センターを拠点として、その基本理念である「人と自然の共生する環境の保全・創造」の実現を念頭に、湖岸整備の基本テーマ「霞ヶ浦一地域の調和を目指して」を設定し、本計画区間が霞ヶ浦の自然環境の保全・復元のシンボル空間として、今後の霞ヶ浦と地域とのよりよいつながりを構築するための一助となることを目指し、以下の基本方針に基づき自然豊かな湖岸環境の形成を図るものとする。

《湖岸整備基本テーマ》

『霞ヶ浦一地域の調和を目指して』

（4つの基本方針）

- 1 自然豊かな湖岸環境の保全と復元
- 2 霞ヶ浦の水環境を学ぶ交流の場の形成
- 3 広々とした湖面、蓮田と調和したふるさとの景観づくり
- 4 安全で、地域に息づく水辺環境の形成

施設導入機能の検討

1) 霞ヶ浦環境科学センター

・台地部と湖岸部との機能分離

	台地部	湖岸部
基本施設	展示交流棟・研究棟	野外フィールド
自然環境への配慮	・斜面林との調和 ・高台の眺望立地性の活用	・湖面・蓮田ののどかで伸びやかな自然景観との調和
研究・環境学習機能等	・調査、研究・情報発信・会議室	・実験実証フィールド、環境学習
アクセス	・広域交通網からのアクセス ・駐車場	・台地部からのアクセス（連続施設としての位置づけ）
レクリエーション機能	—	湖岸、湖面の利用

2) 施設導入機能の検討

・本計画は、霞ヶ浦環境科学センターの野外フィールドの機能導入を基本に、それらを補完し、霞ヶ浦湖岸を一体的に整備することによる野外フィールドとしての機能が高まることを目的として、前述の基本方針を踏まえ、導入する湖岸部の施設機能を以下のとおり整理する。

基本方針		1. 自然豊かな湖岸環境の保全と復元	2. 霞ヶ浦の水環境を学ぶ交流の場の形成	3. 広々とした湖面、蓮田と調和したふるさとの景観づくり	4. 安全で、地域に息づく水辺環境の形成
湖岸部	野外フィールドの機能条件	ヨシ原の保全、復元	実験実証フィールド 植生浄化実験施設 生態観察園 管理棟・トイレ等		広場 サイクリング道(計画)
	環境学習ゾーン	・ヨシ、アサザ、マコモなどの水生植物の保全・復元 ・堤防天端から湖面との連続性に配慮した緩傾斜堤防	・堤防拡幅（スーパー堤防）による環境学習拠点広場 ・環境学習（観察、学習）機能を有した管理等 ・堤内地への取水施設（風力、ソーラー発電） ・環境学習のイベント空間としての広場	・堤防拡幅（スーパー堤防）による眺望広場 ・霞ヶ浦の特徴であったまとまりのあるヨシ原、湖畔林の保全・復元	・堤防拡幅（スーパー堤防）によるサイクリング道との一体整備 ・船着き場による水上交通の確保 ・湖岸へ近づくことのできる緩傾斜護岸 ・レンタサイクル施設による周遊拠点としての活用
湖岸部周辺	水辺植生保全・復元ゾーン	・ヨシ原、アサザ、マコモ等の保全・復元	・湖岸の水生、湿生植物に近づくことのできる緩傾斜護岸 ・野鳥観察サイン ・植物観察サイン	まとまりのあるヨシ原の保全・復元	・サイクリング道（計画）の整備
	湖面利用ゾーン	・高木並木の形成	・浮島整備（計画）、捨石による水性動物の生息空間の形成	・湖岸の曲線を景観軸とする高木並木の形成	・サイクリング道（計画）の整備 ・親水デッキ

〈環境学習ゾーン整備イメージ〉

※サイクリング道、船着き場等の関連計画や調整は未定であり、
現況湖岸の道路利用を基本とした構想となっております。



CASUMTGAIPA CYCLING ROAD

霞ヶ浦の光をあびて走り抜けるサイクリングロード



位置図



志戸崎地区

L=約3.4Km区間
供用開始予定

自然公園大会関連

供用開始区間
L=約6.3Km区間

麻生～島並地区

L=約2.3Km区間
供用開始予定

永山地区

L=約1.5Km区間
供用開始予定

霞ヶ浦自転車道整備の目的

霞ヶ浦自転車道は、霞ヶ浦湖岸の観光資源を結び、潮来市から土浦市までの約40kmにわたって整備されるもので、快適な湖畔環境の中で県民の健康増進を図ることを目的としています。

自転車道のかたち

(標準断面図)
堤防や周辺の状況によって形態は異なります。



自転車道の距離

市町名	距離
潮来市	2.3km
麻生町	11.9km
玉造町	6.5km
霞ヶ浦町	14.3km
土浦市	5.1km
計	40.1km